式辞

新入生の諸君、ご入学おめでとうございます。
また、ご参列を賜りましたご来賓の皆様、そして、今まで新入生諸君を支えてこられたご家族の皆様にも、心からお喜び申し上げます。

さて、平成３０年度国立清水海上技術短期大学校の入学式にあたりまして、教職員を代表して、一言ご挨拶を申し上げます。

本校は、前身の高浜海員学校創設の１９４４年に船員教育を開始してから、今年で７５年を迎えます。

その歴史をたどれば、時代の要請により教育内容を変化させながらも、技術力を備えた船員養成を理念とする教育を一環して行ってまいりました。結果として、本校卒業生達は、日本の海運を維持・発展させるという重責を立派に担ってきたのは事実です。また、最近では例年１００名程度の船員を世に送り出しており、年間の新人船員養成数では我が国第１位の実績を誇っています。

このように、質の面でも、数の面でも、本校が日本の海事産業の発展、ひいては日本経済に大きく寄与している事実をもって、諸君は、これからの学校生活を、誇り高く勉学に励んでいただきたいと考えています。

ところで、本校における教育は、きわめてシンプルに、職業人としての船員を指向するものであります。

教育システムは船員になるためのカリキュラムのみで構成されており、４級海技士（航海）及び（機関）の国家資格取得が最大の目標となります。しかし、実務者養成のための実習授業における訓練も充実させ、また、学校生活のほぼすべてが船員生活を念頭においた資質教育と関係してきます。

ここで、資質として諸君に求めるものを、ホームページに掲載しているアドミッション・ポリシーの中から抜粋して紹介いたします。

１．規律を守り、協調性があり、団体生活に順応できること
２．積極性や行動力を備え、変化に富む海上勤務に柔軟に対応できること
３．将来の船長や機関長を目指す向上心や責任感を備えていること

以上のような資質を持った良き船員を目指して、２年間、自らを鍛え上げていただきたいというのが諸君への願いです。

一方、学校としても諸君を迎え入れるにあたり、本年４月に「教育宣言」を行いました。
短文ですので「教育宣言」の全文を紹介いたします。
「我々学校職員は、学生に対し、教育者として、また教育機関として誠実に向き合い、彼らの将来のために尽力することが職務であることを、あらためてここに宣言する。」
今時の言葉を使えば「学生ファースト」となりますが、これは、学生の要望を何でも聞くということではありません。諸君が船員として独り立ちするためのお手伝いを全力で行う、という学校の姿勢を示すものであります。

さて、ここまでで、諸君への願いと学校の姿勢を確認しましたが、今、他には何が必要でしょうか？
「周囲の人達の応援」が思い浮かびましたか？
具体的に「親」や「友達」を考えた学生もいるかもしれません。「親」や「友達」は、今後も諸君を深い愛情や友情を持って助けてくれるでしょう。しかし、諸君の応援者はそれだけではありません。
船会社や船会社の関係団体、行政機関、後援会や同窓会などの組織、地域の方々など、様々な関係者の皆様が、諸君の学校生活や就職活動などについて、力強くご支援していただくことを理解して下さい。
諸君への大きな期待を抱いている応援団のパワーをいただいて、船員になるという希望を、夢を、是非叶えて下さい。

本日から、諸君の置かれた環境は大きく変わり、しかし、目標に向かって一歩踏み出すことになります。たとえ困難があって、くじけそうになることがあっても、誇りを持って、自らを鍛えて、周囲の皆様の応援を受けて、臆することなく立ち向かい、充実した学生生活となるように心から願い、式辞とさせていただきます。

平成３０年４月９日

国立清水海上技術短期大学校長

片岡　英明